



# バグダッドLO日々業務報告(1月20日1900)

区分	内容
1 警戒態勢等	(1) サマーワに直接影響を及ぼす脅威情報 (2) イラク全域に係る脅威レベル サマーワ及びバスラは [REDACTED] バグダッド及びモスルは [REDACTED] ラマディは [REDACTED]
2 特記事項	なし
3 本日の業務	(1) 情報収集及び連絡調整 (2) 5次要員に対するB I A Pでの申し送り
4 明日の予定	(1) 情報収集及び連絡調整 (2) 5次要員に対する申し送り
5 その他(備考)	なし

## バグダッド日誌(1月20日)

### ○ バグダッドに必要なもの……

- ここ最近の司令官報告(BUA)で、バグダッドの給電時間は2~3h/日が続いている。以前はもう少し長い時間給電されていた。バグダッド市民の多くが自家発電機を備え、電力を確保しているのが実態と聞いたこともある。米軍のIO(情報戦)とのLO仲間による偵察もあり、実態がいかなるものかについて、バグダッド市内や電力会社に直接接する手段がない我々としては確認の方法がなかった。裏を返せば、米英軍はいくらでも情報操作が可能ともいえる。
- 昨日、業務の申し送りの一環でIZ(インターナショナル・ゾーン)内の米国大使館を訪問した。大使館施設内の多国籍軍司令部(MNFI)の所要関係部署に後任者を案内するとともに、主要関係者に紹介して回った。
- IZ訪問は米軍の定期運行ヘリを申請して行すが、昨日は様々な行事や会議のため、多くの将官がIZを訪問し、我々の移動は、幸運なことに早朝及び夜間のフライトになった。今回の私の最後のIZ訪問は6回目にして、初の夜間フライトの便がとれた。「バグダッドの夜景が見れる!」と喜んで出発した。
- 1825、IZを離陸し、キャンプ・ヴィクトリーへ飛行するヘリから見たバグダッド市内は、ネオンサインこそないが日本の夜景とほぼ変わらないものだった。東京と同じというわけにはいかないが、ほぼ全ての家屋に電気が灯り、道路の照明も点灯されていた。街灯の明かりが全く点灯されていないのは、皮肉な事に我々のいるキャンプ・ヴィクトリーくらいだった。
- もちろん、わずかな飛行時間であるから、その時間だけ偶然給電されていたのかも知れないが、ほぼ全ての家庭自家発電により、電力を確保しているのが実態なのだろうと思う。2h/日の給電しかないバグダッド市民にとって、政治と経済が発展し、治安が安定して生活インフラが整備されるのを待ち望んでいるのだろう。しかし、当面は電力を確保するための「燃料の確保」が最も必要なものなのだろうと思った。「熱くなる」夏はなおさらだと思ふ。

### ○ [REDACTED]と再会!

- 米大使館内を歩いていると、偶然 [REDACTED] 前コアリション作戦部副部長)と行き会った。大佐の事務所を訪ねて、不在だったため、残念だと思っていた時だったからその偶然に驚いた。
- 後任者を紹介し、帰国の挨拶をすると、大佐は「お前は俺より後に来て、俺より先に帰るのか! ?」といきなり怒鳴った。「すいません」と謝る私に「他の日本人LOによろしく」と笑顔で応じてくれた。
- 今は経済支援(現職の経済学者で帰国後は、フィラデルフィアの大学教授に就任予定)の部署で勤務しているが、コアリションにいた時の方がずっと楽しかったと話してくれた。しばらく副部長当時の話で盛り上がった。
- スマトラの津波災害にも派遣され、 [REDACTED] と勤務した事もある大佐は、「次の災害派遣でまた会おう!」と笑顔で話してくれた。帰国前に大佐に挨拶できて、私もとても嬉しかった。